

高齢者の社会的活動と関連要因

シルバー人材センターおよび老人クラブの登録者を対象として

オサダ	ヒサオ	スズキ	タカコ
長田	久雄*	鈴木	貴子 ^{2*}
タカタ	カズコ	ニシタ	アキトシ
高田	和子 ^{3*}	西下	彰俊 ^{4*}

目的 シルバー人材センターおよび老人クラブに登録している高齢者を対象として、主な社会的活動項目の分類を行い、性別・年齢別による比較と1年間の活動量の変化、QOL質問票との関連について検討を行った。

方法 東京都A区のシルバー人材センターおよび老人クラブ会員に対して、地域における社会的活動ならびにQOLに関する自己記述式調査を行った。翌年も同様の調査を行い、両年ともに回答の得られた1,334人を対象に分析を行った。調査方法は、初年は簡易面接にて回答をしてもらい、翌年は郵送法による調査票の郵送・返却を行った。

まず社会的活動項目について探索的因子分析を行い、信頼性の検討を行った。次に、確認された社会的活動の各因子の得点ならびにQOL質問票について、性別、年齢別にt検定、一元配置分散分析を行った。また、1年後の再調査における社会的活動項目の変化についても検討した。

結果 社会的活動に関する項目が4因子全14項目であることが確認され、同時にモデルの信頼性が確認された。4つの因子は、「地域活動への参加」、「親戚・友人を訪問」、「集団活動への参加」、「趣味活動」であった。各因子のCronbachの α 係数は $r=0.73\sim 0.87$ であり、信頼性が確認された。

性別、年齢別の比較では、「親戚・友人を訪問」($t=4.70, P<.001$)、「趣味活動」($t=2.14, P<.05$)で女性より男性の活動頻度が有意に高く、また年齢差では女性の「親戚・知人を訪問」の頻度が70-74歳で有意に高かった($F=4.61, P<.01$)。また1年後の再調査では、男女いずれにおいても因子別・年齢別において中程度以上の相関が確認された($r=0.58\sim 0.88$)。

社会的活動の各因子は、男女ともにQOL質問票の「精神的活力」($r=0.10\sim 0.59$)と、また女性では社会的活動の各因子とQOL質問票の「人的サポート満足感」($r=0.15\sim 0.44$)と主に関連がみられた。

結論 地域高齢者の主な社会的活動として4因子14項目が抽出され、信頼性が確認された。また、性別、年齢別による社会活動の頻度の違いが明らかとなった。今後は地域差や予防的観点を含めた心理的・身体的健康との関連についてさらに検討する必要がある。

Key words : 地域高齢者, 社会的活動, QOL 質問票

* 桜美林大学大学院老年学研究科

2* 早稲田大学保健センター

3* 独立行政法人国立健康・栄養研究所

4* 東京経済大学

連絡先: 〒160-0004 新宿区四谷 1-21

桜美林大学大学院老年学研究科 長田久雄